＜報道発表資料＞

2001年4月24日

「インターネットの普及予測について」
～インターネットの高速化、固定網と携帯電話での併用が一層進む～

株式会社 情報通信総合研究所(東京都港区南青山1-12-31、代表取締役社長:小原暉章)は、日本のインターネットの今後の普及についての調査研究を行い、その結果をまとめました。
本調査研究は、今後のインターネット利用世帯数、及び利用人口の予測を行いました。

調査研究結果のポイント

1.インターネット利用世帯の予測

高速でのインターネット利用世帯が、2004年度には利用世帯の80%を占める

インターネットの利用世帯は、2000年度、約1,600万世帯(世帯普及率35%)から、2004年度には、約4,000万世帯(同83%)に増加する。
特に、高速(光ファイバー、ADSL、CATV等)でのインターネットの利用世帯は、2004年度で約3,300万世帯となり、インターネット利用世帯の80%を占める。

高速インターネット利用世帯増加の要因

1. 高速インターネットサービスの認知率、利用意向率が、ともに高い。
   特に光ファイバーの認知率は、インターネットユーザ、非ユーザ共に高い。
2. 利用希望理由として、「快適に利用したい」が77%と最も高く、「高速を必要とするコンテンツを利用したい」は、6%と低い。 （詳細：別紙1、別紙2》参照）

2.インターネットの利用人口の予測

インターネットの利用人口は、2004年度で1億人を超える。
その内、固定網と携帯電話でのインターネットの併用者が70%を占める。

インターネットの利用人口は、2000年度、約4,500万人(人口普及率35%)から、2004年度で、約1億人(同79%)に増加する。
その内、固定網・携帯電話の両方でインターネットを利用するユーザが、2004年度で、約7,000万人となり、インターネット利用人口の70%を占める。

併用ユーザ増加の要因

1. 携帯電話インターネットユーザは、固定網でのインターネット利用意向が高く(約60%)、「携帯電話でインターネット開始」→「固定網でも利用」という流れが形成されるものと考えられる。
2. 固定網と携帯電話でのインターネットは利用場所・利用シーンに応じた使い分けがなされ、また、一度併用すると、どちらかの利用をやめることが少ないことも要因の一つと考えられる。
   （詳細：別紙3、別紙4》参照）

（参考）米国との比較

2002年度には、高速のインターネット世帯普及率で、米国を越える

インターネット全体の世帯普及率は、2001年度に米国を超え、更に、高速でのインターネット世帯普

及率も、2002年度に超える。

米国の状況

1. 既に、米国では市内定額制によるダイヤルアップでの利用に満足している層が厚く、費用負担が増える高速への移行が必ずしも早くは進まない。
2. 米国ユーザの高速希望理由は、「高速向けコンテンツの利用」が40%と最も高い(日本は6%)が、ユーザーの要望を満たす魅力ある高速コンテンツが未整備であることも、高速への移行が促されない要因の一つと考えられる。（詳細：別紙5、別紙6）参照）

調査研究概要

これらの予測は、弊社実施の「インターネット利用に関するアンケート調査」の結果を元に、廣松 毅氏(東京大学 大学院総合文化研究科 教授)を中心とした研究会にて実施いたしました。

「インターネット利用に関するアンケート調査」調査概要

実施期間	2000年10月
実施対象	全都道府県の15才以上の個人
有効サンプル数	5000
調査方法	訪問留置き法

本調査研究での用語について

インターネット利用世帯について

- インターネット利用世帯とは、家庭で、固定網により、最近1ヶ月間に少なくとも1回は、家族の内少なくとも一人は利用している世帯をいう。
- 高速インターネットとは、光ファイバー、ADSL、CATV等利用のインターネットをいう。
- 低速インターネットとは、加入電話、ISDN利用のインターネットをいう。

インターネット利用人口について

- インターネット利用人口とは、利用場所を問わず、最近1ヶ月間に少なくとも1回は利用している、15才以上の個人をいう。
- 固定網でのインターネット利用とは、光ファイバー、ADSL、CATV、加入電話、ISDN等によるものをいう。
- 携帯電話でのインターネット利用とは、iモード、EZウェッブ、Jスカイの利用をいう。

＜株式会社情報通信総合研究所＞ 概要

1985年6月に電気通信総合研究所(現財団法人国際通信経済研究所)から分離、設立されました。国内外の情報通信に関する調査・研究を専門としたシンクタンクとして、国、地方自治体、情報通信関連企業から調査・研究プロジェクトを受注、コンサルティングを行う等、多方面から高い信頼をいただいております。弊社ホームページ：http://www.icr.co.jp/index_j.html

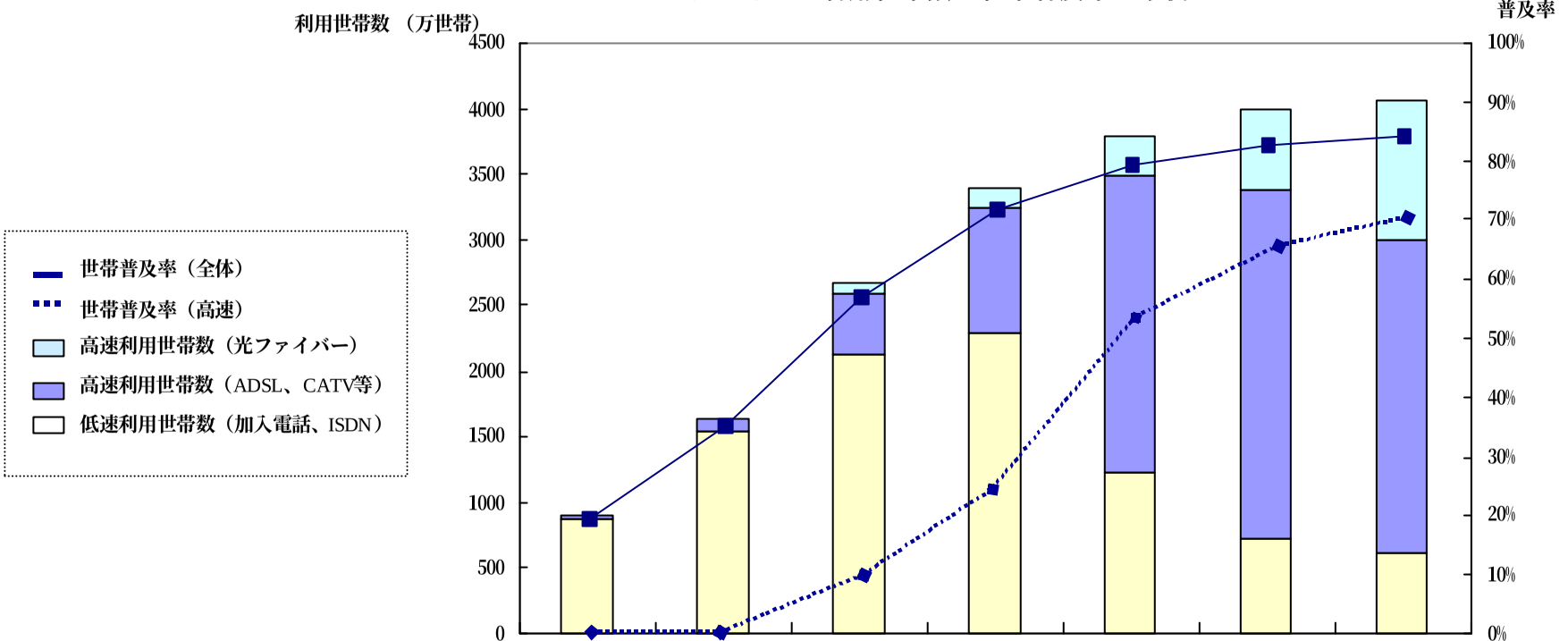
【お問い合わせ先】
(株)情報通信総合研究所
通信事業研究担当　須田 英二
電話：03-3470-7556
suda@icr.co.jp

報道発表資料（別紙その１）

２００１年４月１１日
㈱情報通信総合研究所

「インターネット利用世帯の予測」

インターネット利用世帯数と世帯普及率の予測



	99年度(00.03)	00年度(01.03)	01年度(02.03)	02年度(03.03)	03年度(04.03)	04年度(05.03)	05年度(06.03)
世帯普及率（全体）	19.2%	35.3%	56.8%	71.8%	79.5%	82.8%	84.1%
世帯普及率（高速）	0.5%	1.9%	11.8%	23.5%	53.6%	67.8%	71.3%
利用世帯数（全体）	900	1,640	2,670	3,400	3,800	3,990	4,070
（内訳）							
高速利用世帯数（光ファイバー）		1	75	160	320	610	1,080
高速利用世帯数（ADSL,CATV等）	22	95	475	950	2,240	2,650	2,370
低速利用世帯数（加入電話、ISDN）	878	1,544	2,120	2,290	1,240	730	620

出所：株式会社情報通信総合研究所

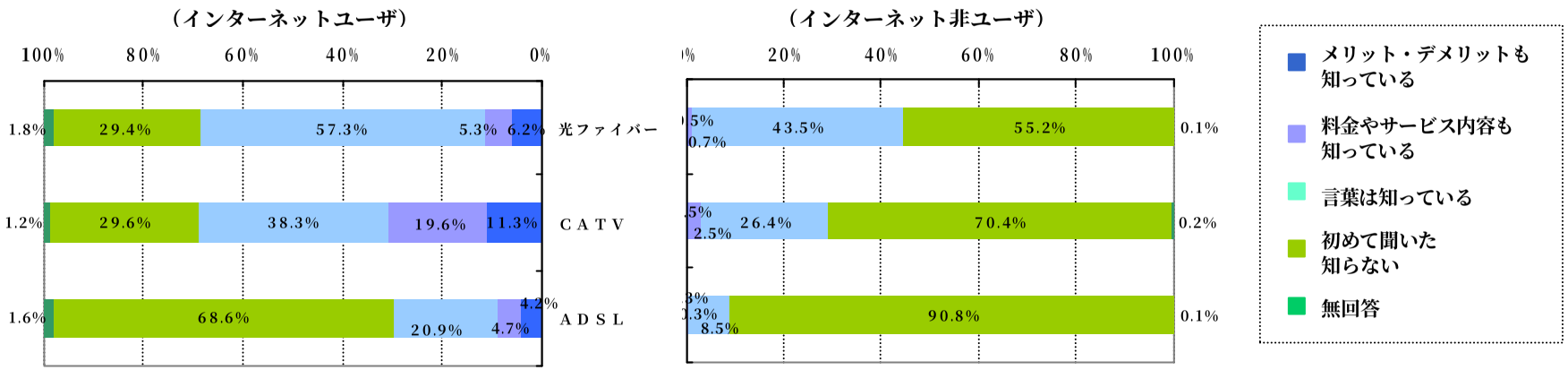
報道発表資料（別紙その２）

２００１年４月１１日
㈱情報通信総合研究所

「高速インターネット利用世帯増加の要因」

＜高速インターネットの認知率＞

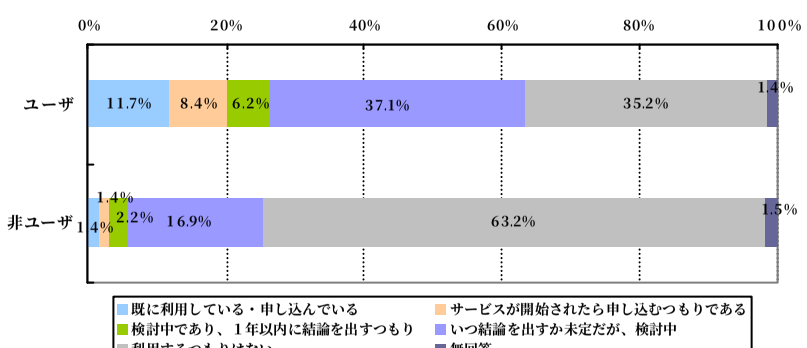
光ファイバーの認知率が、インターネットユーザ、非ユーザともに高い



（ＳＡ　ユーザ：Ｎ＝１２４４　非ユーザ：Ｎ＝３７５６））　出所：株式会社情報通信総合研究所

＜高速インターネットの利用意向＞

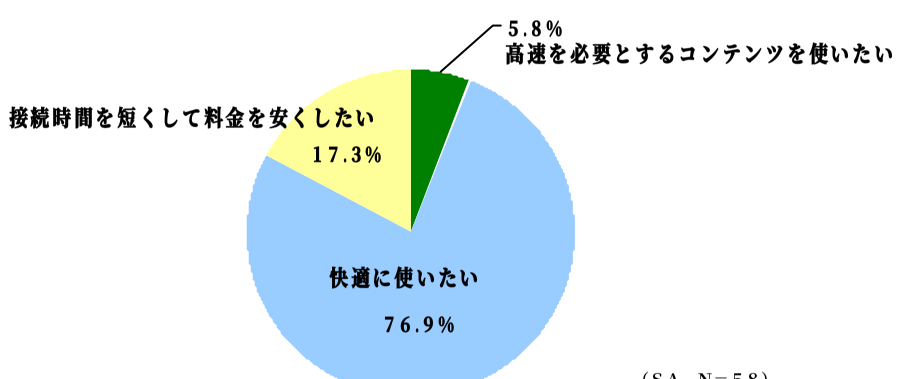
インターネットユーザの６割強が、非ユーザでも約２割が、何らかの形で高速インターネットの利用を検討している



（ＳＡ　ユーザ：Ｎ＝１２４４　非ユーザ：Ｎ＝３７５６））　出所：株式会社情報通信総合研究所

＜インターネットユーザの高速インターネットを希望する理由＞

問　より速いインターネット接続サービスを希望する理由は何ですか？

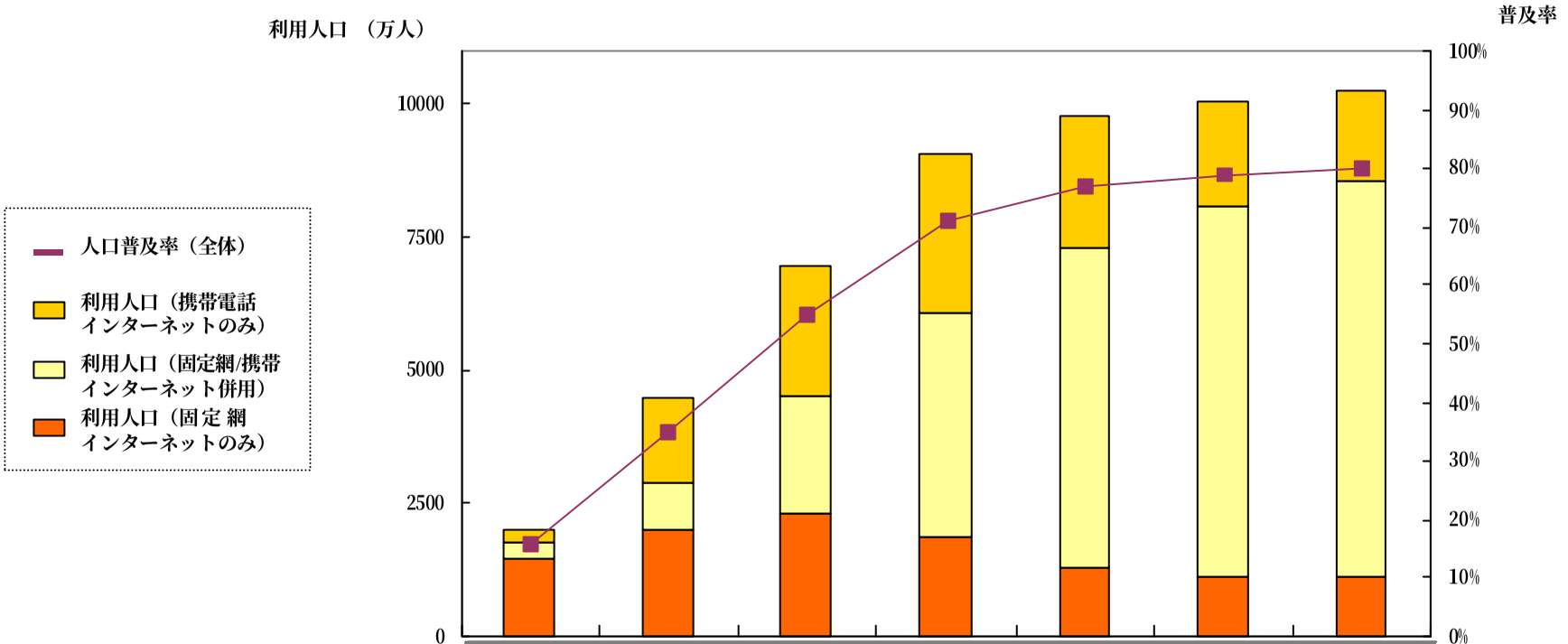


（ＳＡ　Ｎ＝５８）
出所：株式会社情報通信総合研究所

２００１年４月１１日
㈱情報通信総合研究所

「インターネット利用人口の予測」

インターネット利用人口と人口普及率の予測



	99年度(00.03)	00年度(01.03)	01年度(02.03)	02年度(03.03)	03年度(04.03)	04年度(05.03)	05年度(06.03)
普及率 全体）	15.9%	35.2%	54.8%	71.0%	76.7%	78.8%	80.3%
利用人口 全体）万）	2,020	4,470	6,980	9,070	9,800	10,070	10,230
内訳）							
携帯電話インターネットのみの利用者	210	1,550	2,460	3,000	2,500	1,960	1,690
固定網/携帯電話併用者	330	900	2,190	4,180	6,000	7,010	7,440
固定網インターネットのみの利用者	1,480	2,020	2,330	1,890	1,300	1,100	1,100

出所：株式会社情報通信総合研究所

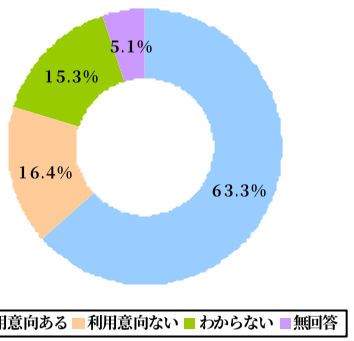
２００１年４月１１日
㈱情報通信総合研究所

「併用ユーザ増加の要因」

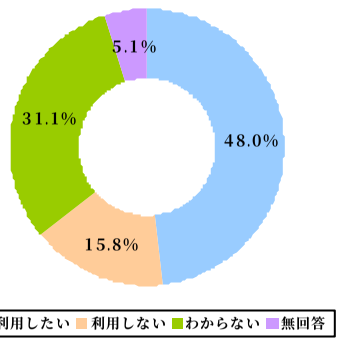
＜携帯インターネットユーザの他端末でのインターネット利用意向＞

６割以上が他端末での利用を考えており、１年以内でも約半数となる

（期間問わない利用意向）



（１年以内の利用意向）

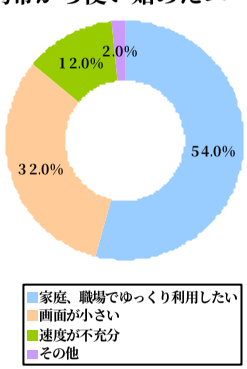


（ＳＡ　Ｎ＝１７７）　出所：株式会社情報通信総合研究所

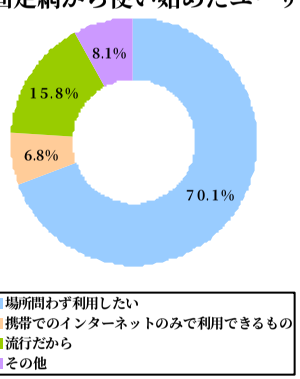
＜固定網と携帯電話でのインターネットの併用理由＞

利用場所を使い分けたいことが、併用の主な理由

（携帯から使い始めたユーザ）



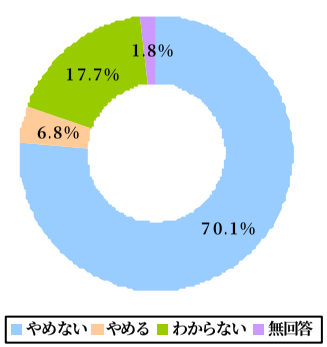
（固定網から使い始めたユーザ）



（ＳＡ　Ｎ＝５０/２２１）　出所：株式会社情報通信総合研究所

＜併用ユーザの今後の予定＞（今後どちらかの利用をやめるか？）

やめる予定は、わずか７％

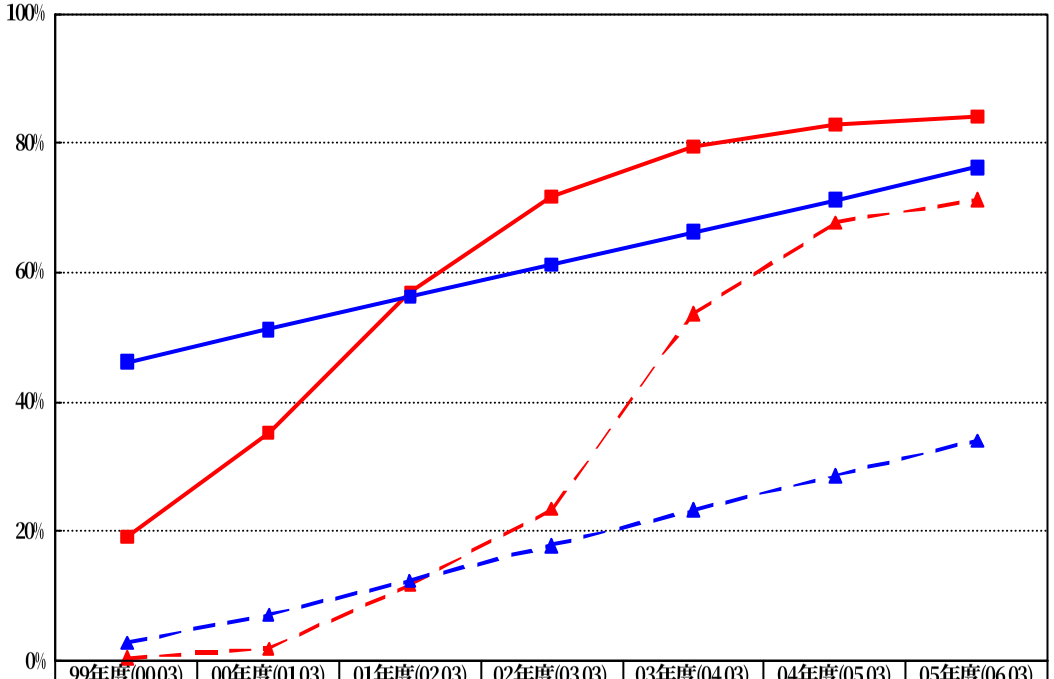


（ＳＡ　Ｎ＝２２１）　出所：株式会社情報通信総合研究所

２００１年４月２４日
㈱情報通信総合研究所

（参考）「米国との比較」

（インターネット世帯普及率の比較）



	99年度(00.03)	00年度(01.03)	01年度(02.03)	02年度(03.03)	03年度(04.03)	04年度(05.03)	05年度(06.03)
日本 全体)	19.2%	35.3%	56.8%	71.8%	79.5%	82.8%	84.1%
米国 全体)	46.3%	51.3%	56.3%	61.3%	66.3%	71.3%	76.3%
日本 高速)	0.5%	1.9%	11.8%	23.5%	53.6%	67.8%	71.3%
米国 高速)	2.8%	7.2%	12.4%	17.9%	23.3%	28.7%	34.1%

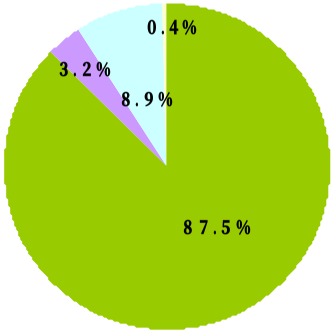
出所：（日本）株式会社情報通信総合研究所
（米国）高速：The Strategis Group 社資料を元に情総研にて作成
全体：Gartner Group社資料を元に情総研にて作成

２００１年4月11日
㈱情報通信総合研究所

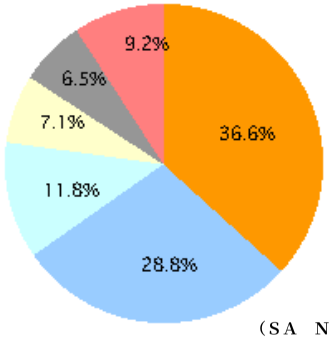
（参考）「米国の状況」

＜米国の状況＞

問　現在家庭からのインターネット接続で最もよく使っている回線は？



問　ダイアルアップ接続を利用している理由は？

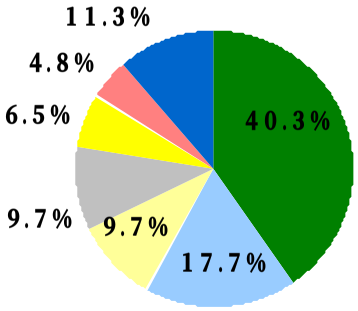


（ＳＡ　Ｎ＝１３８０２９）

料金が安い/適正だから
他の選択肢が無いから
選択肢が有るかどうか不明だったから
希望するＩＳＰが選べるから
使いなれているから
その他

出所：the US General Accounting Office

＜高速インターネット希望理由＞



高速向けのコンテンツを使いたいから
通話用の電話と併用したくないから
使いなれているから
料金が安い/適正だから
希望するＩＳＰが選べるから
職場等での速度と同等にしたいから
その他

（ＳＡ　Ｎ＝19718）

出所：the US General Accounting Office